

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

添田町交流・にぎわいプロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

福岡県田川郡添田町

3 地域再生計画の区域

福岡県田川郡添田町の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

当町の観光入込客数は 911,400 人（R2 観光入込客数推計調査）と、人口約 10,000 人に対し高い水準を誇るものの、10 年前と比較し、約 20 万人の減少がみられる。また、令和元年の福岡県観光ビッグデータ調査によると、添田町への旅行者の県全体に占める割合は 0.17%、宿泊者の割合は 0.13%に過ぎないことが示されており、将来像実現に向け、大きく以下 4 つの課題が挙げられる。

○日帰り観光客が多く、町内の滞在時間も短く、観光消費額も少ない

・日帰り観光客が 96.7%（H27 添田町観光戦略）と多く、宿泊型観光客が非常に少ない。

・来訪者のうち滞在時間が 3 時間以内と短い者が 46.7%と大半を占め、観光施設における消費額の平均は 1,662 円／人と少ない。（H27 添田町観光戦略）

○消費ニーズは「モノ消費」から「コト消費」へ変化する中、体験型観光施設が町内には少ない

・「普段の生活に関する定性調査及び定量調査：平成 27 年株式会社ジェイアール東日本企画」では、欲しいものを買うといったモノ消費と答えた割合は 16%に対し、旅行などコト消費と答えた割合は約 41%と、モノ消費からコト消

費にニーズが変化している。

- ・令和2年の田川地域認知度調査において、田川地域に欲しい旅行の要素として、グルメ 16.3%・温泉 10.1%について、体験・アクティビティが 8.7%と多い。

- ・一方で、体験型観光として、季節的なイベント・事業はいくつかあるものの、継続的に運営される施設は町内に1施設しかない。

○町内周遊など線・面的広がりには欠ける。

- ・観光入込客 911,400 人に対し、町内観光施設利用者は 340,290 人（約 37%）と少ない。そのうち、道の駅歓遊舎ひこさんの来訪者が 290,803 人（約 85%）を占め、その他観光施設の利用は 49,487 人に留まる。

○主要観光施設である道の駅歓遊舎ひこさんの来訪者減少

- ・令和2年度の町指定管理施設の利用状況調査では、道の駅歓遊舎ひこさんの来訪者は5年間で約10万人減少しており、それに伴い売り上げも約12億円減少している。

道の駅歓遊舎ひこさん周辺を「にぎわい拠点」と位置づけ、本事業による新しい人の流れの構築と、人が集まる受付・管理棟（交流拠点）において、観光情報提供及び町内周遊を促す対策により、来訪者の滞在時間を延ばし観光消費額の増加につなげる。また、町内の事業者や農産物等生産者等が潤い、新たな加工品開発の意欲向上など農業政策への波及、新たな出店者の参入による商工施策への好影響も期待される。

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

当町は福岡県の東南部に位置し総面積 132.2 km²のうち約 84%は森林であり、自然豊かな環境と地域資源を有している。令和2年度の国勢調査人口は 8,801 人で、これはピーク人口の 27,987 人（昭和30年）から約 69%の減少、5年前の国勢調査と比較しても△1,123 人と約 11%減少している。また高齢化率は 44.6%と福岡県内でも2番目に高く、人口減少と高齢化による地域活力の低迷

や担い手不足が大きな課題である。

第2期総合戦略では、「いつまでも健康で住み続けられる・住みたくなるまち」という将来像を掲げ、「添田町に新しいひとの流れをつくる」という基本目標の達成を目指し、各種施策を推進している。特に観光面においては交流人口及び関係人口の増加によって課題解決を図ることを目指し、「①町内プレイヤーの育成確保」「②プロモーション活動の推進」「③道の駅歓遊舎ひこさん周辺をにぎわい拠点と位置づけ、ここにおける観光整備事業を進める」などを施策の具体的な取組に掲げており、本申請では③の事業として、新たに添田町の強みである自然を活かし、体験型観光施設を整備し、「にぎわい拠点」を核とした観光入込客の増加と滞在時間を長くする取組を進める。さらにはこの「にぎわい拠点」を核とした町内周遊観光の促進を進めることで、町全体に新しい人の流れが生まれ、交流人口・関係人口の創出がなされて、観光による産業の活性化・地域振興・都市部からの定住促進といった、好循環を備えた町の将来像を目指す。

【数値目標】

K P I	事業開始前 (現時点)	2022年度増加分 1年目	2023年度増加分 2年目
自然共生型アウトドアパーク 利用者数(人)	0	0	7,000
自然共生型アウトドアパーク 町内雇用者数(人)	0	0	3
道の駅歓遊舎ひこさん 売上げ増加額(千円)	486,165	0	2,800

2024年度増加分 3年目	2025年度増加分 4年目	2026年度増加分 5年目	K P I 増加分 の累計
1,400	1,680	1,008	11,088
1	1	1	6
560	672	403	4,435

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2の③及び5-3のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007（拠点整備）】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

自然共生型アウトドアパークの整備による交流人口拡大プラン

③ 事業の内容

上記をふまえ、「にぎわい拠点」と位置づける道の駅歓遊舎ひこさんに隣接する森林 1.5ha を活用し、森林アクティビティ体験を提供する施設（自然共生型アウトドアパーク）の整備を行う。子供から大人まで楽しめるコースを提供することにより、新たな層の観光客の誘致を図る。具体的には、ジップラインや樹上トレッキングの要素が詰まった森のアドベンチャーパークで、杉などの上に設置された足場に登り、そこから別の木にロープを足場に移動していき、地上へはジップスライドで滑り降りる新しいアドベンチャースポーツを展開する。このうち、本交付金の対象として受付・管理棟（交流拠点）の整備を行いたい。受付・管理棟（交流拠点）は鉄道のBRT化に伴い廃止となった道の駅歓遊舎ひこさん駅舎を、令和3年度中にJR九州より取得したうえで、本事業により改修を行い、町の観光情報の提供やプロモーションを行う交流拠点として活用する。また、事業運営は民間による指定管理を想定しており、定期的（毎月1回）意見交換や経営状態のモニタリングを行いながら、有効な施設活用を行っていく。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

施設運営を民間事業者が行い、アウトドアパークとして新たな利用者の増加を図るとともに、整備した各種アクティビティの利用料及びレンタル収入・物販などを原資に、施設の維持管理を含め、持続可能な安定的な運営を行っていく。（具体的な内訳は以下のとおり）

収入	パーク	物販
2023 年度	21,000 千円 (3 千円× 7,000 人)	1,050 千円
2024 年度	25,200 千円 (3 千円× 8,400 人)	1,260 千円
2025 年度	30,240 千円 (3 千円×10,080 人)	1,512 千円

支出	人件費	営業経費	その他
2023 年度	13,230 千円	3,308 千円	3,307 千円
2024 年度	15,876 千円	3,969 千円	3,969 千円
2025 年度	17,464 千円	3,810 千円	4,763 千円

【官民協働】

森林アクティビティの設計・整備に際しては、民間企業のコース設計及び安全管理のノウハウを有した提案を活かし、幅広い世代が楽しめるアウトドアパークを整備する。また運営についても、効果的なプロモーションや企画や運営ができる民間事業者の参入を促し、施設の集客力と収益性を高めるとともに、道の駅歓遊舎ひこさんの集客や出品者の収益増加につなげていく。また、既存の観光施設と連携してプロモーションや割引制度などを実施し、地域経済の活性化など相乗効果を生み出していく。（関係者の役割は以下のとおり）

- ・添田町（官） プロジェクト全体の推進、自然共生型アウトドアパークの整備、指定管理者の選定及び定期的な意見交換やモニタリング、既存観光施設との連絡調整

- ・指定管理者（民） 自然共生型アウトドアパークの運営及び効果的なプロモーションの実施。既存観光施設との連携による町内周遊の促進、道の駅への誘客への取組

- ・道の駅歓遊舎ひこさん にぎわい拠点を形成する核となる施設として、自然共生型アウトドアパークと連携したプロモーションや特産品の販売促進

- ・ひこさんホテル和 自然共生型アウトドアパークを取り入れた宿泊プランの造成やパーク利用者への割引などの実施

【地域間連携】

強力な体験型のアクティビティを整備することにより、新たな層の観光客の誘致を図り、それを日本三大修験の地として名高い、英彦山地域を中心とした本町の歴史観光との連携を促進する。また、日田彦山線沿線地域振興計画において政策連携を行っている東峰村との連携を強化し、さらなる観光交流を促進していく。また、田川広域観光協会とも連携し、観光ルートを設定するなど、広域観光を推進し、周辺地域の観光消費を高め、地域活性化に寄与する。（具体的な地域間連携の内容は以下のとおり）

- ・東峰村との連携 日田彦山線沿線地域振興計画に基づき、BRT停車駅のにぎわい形成による、観光周遊ルートを確立する
- ・田川広域観光協会との連携 田川市郡で実施している広域ツアーやパンフレットへ「自然共生型アウトドアパーク」を盛り込む

【政策間連携】

観光産業への起爆剤になるとともに、道の駅への誘客につながり、農産販売の増加を通じた農業政策への波及効果が見込める。また、本計画は鉄道のBRT化に伴い廃止となった駅舎などをリニューアルして整備する予定であり、廃線をポジティブに有効利用するという先駆的な事例を生み出すことができる。この計画がBRT化に伴う、地域振興プロジェクト全体に及ぼす影響は大きい。併せて、町内小中学校と連携しアウトドアパークを活用した自然教育を推進することで、活力ある子供を育成し、広大な森林を有する本町へのシビックプライドの形成も行っていく。（具体的な政策間連携の内容は以下のとおり）

- ・農業施策との連携 道の駅の売上増加に伴う生産者の意欲向上により、町が進めている特産品や農業施策との連携を進める。
- ・交通施策との連携 BRT発着所に強力な集客施設を整備することにより、課題であった公共交通の利用者増加や駅周辺のにぎわいの形成を図る。

・移住定住施策との連携 本事業の実施による町内雇用の創出に伴い、移住定住につなげるため、町の施策（空家バンク、リノベーション支援）との連携を図る。

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4-2の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証時期】

毎年度6月

【検証方法】

KPI達成状況を町の担当課で取りまとめ、外部有識者で構成する「添田町総合戦略検証委員会」に報告し、評価・検証を行う。

【外部組織の参画者】

既存の「添田町総合戦略検証委員会」において検証を行う。委員については、産官学金労言などの外部有識者で構成されている。

【検証結果の公表の方法】

町HPなどにより公表

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 28,750千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から令和9年3月31日まで

⑨ その他必要な事項

特になし。

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 自然共生型アウトドアパーク整備事業

ア 事業概要

自然と共生する持続可能な集客施設として、自然の立木を使った、森林アトラクション、アウトドアパークの整備を行う。

イ 事業実施主体

福岡県田川郡添田町

ウ 事業実施期間

令和4年4月1日から令和5年3月31日

(2) 観光PR事業

ア 事業概要

隣接の道の駅歓遊舎ひこさんや英彦山を中心とする観光施設と連携し、共同のプロモーション等による波及効果を促す。

イ 事業実施主体

福岡県田川郡添田町

ウ 事業実施期間

令和4年4月1日から令和9年3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から令和9年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、5-2の⑥の【検証時期】に7-1に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。